

公益財団法人金原一郎記念医学医療振興財団主催、医学書院「総合リハビリテーション」編集室後援の「第 21 回総合リハビリテーション賞」授賞式が 2013 年 7 月 31 日、医学書院本社にて行われた。受賞論文は、中野英樹（畿央大学）・他による「足底知覚学習課題が高齢者の歩行安定性に与える効果—ランダム化比較対照試験」（総合リハ：40 巻 10 号、2012）である。

本賞は、「総合リハビリテーション」編集顧問の上田敏先生が東京大学を退官される折（1993 年）に金原財団へご寄付いただいた基金を原資として発足した。授賞式では、上田先生より賞状・盾・賞金（10 万円）が論文筆頭者の中野氏に贈呈された。

「第 21 回総合リハビリテーション賞」は、2012 年発行の「総合リハビリテーション」第 40 巻に掲載された投稿論文 45 篇のなかから、編集同人の推薦を経て、編集委員会において中野氏らの上記論文に決定した。

受賞論文は、地域在住高齢者を対象とし、立位にて足底知覚課題を学習させる介入を実施すると歩行時の体幹動揺が減少するという作業仮説を、ランダム化比較対照試験によって検討したもの。知覚課題学習群では、足底知覚課題を行うと、歩行速度に変化は認めないものの、歩行時の体幹動揺が有意に減少した。介入前において歩行時体幹動揺の程度と知覚課題誤答数は有意に相関しており、介入による両者の改善度の間にも有意な相関を認めた。したがって、知覚課題学習群では足底知覚課題によって足底知覚の誤差を修正するという誤差学習が生じ、歩行中の動揺が減少したと考察している。

「研究デザインの完成度、結果の緻密な吟味、介入手段の斬新さが秀逸であり、高齢者の転倒予防に対して、従来の運動療法とは異なる介入手段の可能性を提供した点で非常に有用な研究であり、今後、本成果のリハビリテーション診療への応用が期待される」と、編集委員を代表して、田中尚文氏（東北大学）が講評を述べた。

受賞の中野氏によると、今回の研究は日々の臨床業務のなかで、いかに患者さんをよくできるか、というところに疑問を抱きながら行なった研究であるとのこと。「患者さんをよくできる研究、リハビリテーションに貢献できる研究を今後もしていきたい」と



受賞者の中野英樹氏

受賞の言葉を述べた。なお、中野氏は 9 月からオーストラリアへの留学を予定されているとのことである。

授賞式後の祝賀会では、編集委員から「リハビリテーションは、RCT がむずかしいと言われるなかで、総合リハビリテーション賞としては初めての RCT 研究が受賞した。採択率が 3 割を切る非常に審査の厳しい雑誌ですが、（査読者が）読んでいて楽しくなる第 2 報をぜひ投稿してほしい」など、さらなる投稿を期待する言葉が寄せられた。

「総合リハビリテーション」には、昨年 1 年間で 155 本の投稿があり、採用は 42 本、採択率は 27%。狭き門であるがゆえに、採用される論文は質の高いものが多いとも言える。

本賞は、職種を問わず、「総合リハビリテーション」誌に論文掲載時に 45 歳までのリハビリテーション領域の若い研究者がその受賞対象となる。狭き門ではあるが、受賞をめざして、ふるってご投稿いただきたい。